



認知症初期集中支援チーム 相談から支援まで

2025年、日本では、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者になることから、5人に1人が75歳以上という、世界でも例をみない超高齢社会を迎えると言われています。そして、高齢化が進むにつれ、認知症になる人も増え、高齢者の5人に1人が認知症になるとも推定されています。

誰もが認知症の人や介護者家族をサポートしていく時代が訪れようとしています。周囲に認知症の人がいることは、決して特別なことではありません。認知症は上手に付き合っていくことが大切な病気です。

認知症が怖くて、見て見ぬふりをしてはいませんか。一人で悩まず、ぜひ相談してください。

問 市地域包括支援センター
☎0994-45-6969



▲認知症サポーターキャラバンのマスコット

認知症早期発見 5つのチェックリスト

- ☐ 物を無くしてしまうことが多くなり、いつも探し物をしている
- ☐ 薬の飲み忘れや、飲んだかどうか分からなくなることがある
- ☐ 今日が何月何日か分からなくなる時がある
- ☐ 一人でいるのが不安になったり、外出するのがおっくうになった
- ☐ 最近、料理の味付けが変わったと家族に言われた

認知症初期集中支援チームによる支援

市地域包括支援センター内には、認知症初期集中支援チーム（以下、支援チーム）が置かれています。

支援チームとは、認知症の人やその家族の初期支援を包括的・集中的に行う組織です。スタッフは、医師や社会福祉士、認知症ケア・在宅ケアの実務・相談業務等に携わった経験のある人など、複数の専門職で構成されています。

なお、支援対象者は、原則40歳以上の人で、かつ自宅で生活し、認知症の症状等があるにもかかわらず、支援を受けていない人です。支援チームは、寄せられた相談内容をもとに、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族の生活を初期段階で支え、自立生活のためのサポートを行います。

認知症の症状とは

- 日常生活において、次のような様々な変化が出てきます。
- さつき聞いたことが思い出せない
- 時間や季節、場所などの感覚が薄れる
- 思考のスピードが遅くなる

認知症の症状のことで困っていませんか

- 料理や作業などの手順を考えられなくなる
- 元気がなくなる
- 物盗られ妄想を抱くなどが挙げられます。

認知症は、早期発見、適切な対処が大切です。本人は気付かない場合が多いので、周囲の人が注意して、早めに相談することにししましょう。例えば、こんなことで困っていませんか。

- 認知症の症状があるようだが、どこに相談すればよいかわからない
- 医療や介護サービスを利用したいが、どうしたらよいかわからない

主な相談施設一覧

施設名称	住所	電話番号
市地域包括支援センター	吾平町麓51-1	☎0994-45-6969
寿8丁目サブセンター（ヴィラかのや）	寿8丁目21-2	☎0994-40-3751
寿2丁目サブセンター（朋愛園）	寿2丁目2-1	☎0994-41-2431
大浦サブセンター（悠々）	大浦町14028-6	☎0994-40-9855
花岡サブセンター（花岡の里）	花岡町3979-1	☎0994-46-5151
大始良サブセンター（慈恵園）	大始良町226	☎0994-48-2800
下祓川サブセンター（鹿屋長寿園）	下祓川町1800	☎0994-40-8333
輝北サブセンター（みどりの園）	輝北町市成1177	☎099-485-1185
串良サブセンター（以和貴苑）	串良町下小原3103-2	☎0994-62-8871
吾平サブセンター（陵幸園）	吾平町麓3811-2	☎0994-58-5900

※このほか、市内各所に設置している「オレンジのまど」（75か所）や、「かのやオレンジカフェ」（15か所）でも相談できます。設置箇所については、市ホームページで確認できます。

- 認知症によると思われる症状が強く、介護や対応に困っている
- 介護サービスを利用したいが、なかなかうまくいかない

このような場合は、市地域包括支援センターをはじめ、お近くの相談施設に連絡しましょう。支援チームがサポートします。

まずはご相談を！



認知症初期集中支援チーム員が自宅を訪問

認知症の人やその家族の介護状況などを聴き取ります



困りごとに応じた医療・介護サービスを調整



介護サービスの検討や調整、認知症の症状に沿った対応についてのアドバイスなどを行います

認知症の人とその家族の生活を支援



支援後、地域の医療・介護・福祉専門職等へ引き継ぎます



バランスのいい食事
脳血管障害の予防のために、野菜や果物、青背の魚を積極的にとる、塩分をとり過ぎないなど、毎日の食事のバランスにも気を配りましょう。



いろいろな人たちと交流
読書や新聞を読むといった知的活動をはじめ、人付き合いも増やし、趣味のサークルやボランティアなどに参加して活動的な毎日を過ごしましょう。



運動する習慣
ウォーキング、水泳、体操、エクササイズなどの有酸素運動を行うと、脳の血流が増すため、認知症予防に効果があるとされています。できれば週5日、1日30分以上の有酸素運動を行いましょう。

「認知症予防」 3つのポイント